

自分の命を守る幼児のための安全教育の教材作成

渡部 かなえ

英文要旨

In this study, we ask caregivers of children to create study tools to identify what should we teach in early childhood education. Caregivers were ordered to select the theme which they thought the most important for children to protect their health and life by themselves. Considering from tools made by caregivers, we knew that caregivers thought that safe education was important in nursery schools and kindergartens, even though the society was obsessed with responding to COVID-19. The most major theme that caregivers selected was injury prevention. Study tools could remind children to avoid injury in play and daily life. From the results of this study, we reconfirmed that protecting children's health and life should be done in 'Children center', 'children first', and health and safe education for children should be done in 'Children center', 'children first' without being easily swayed by convenience for only adults and elderly.

キーワード

Children, safe education, children center, children first

緒言

健康や安全についての学びは、小学校以降の学校教育だけでなく、幼稚園や保育所、認定こども園でも重要な教育内容として位置付けられている^{1), 2), 3)}。

新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）の拡大によって幼児教育・保育の現場も大きな影響を受けた。保育士や幼稚園教諭の感染や濃厚接触者になったことによる休園や、子ども自身や保護者の感染による登園自粛を余儀なくされたことから、感染予防のための手洗いや健康管理などの保育・教育支援が、園でも一層熱心に行われるようになった⁴⁾。しかし、基礎疾患など特別な配慮が必要な健康上の問題は無い園児のコロナによる死亡事例やひどい後遺症が残るような重症事例はない⁵⁾、コロナ禍でも、幼児の死亡の主要な要因は先天性疾患および不慮の事故であって、コロナを含む感染症ではない⁶⁾、感染症予防を念頭に置いた教育・支援はもちろん重要であるが、対応が必要なのはコロナだけではない。本研究は、子ども自身が自分の健康と命を守るために、今、教育すべきことは何なのか、を明らかにすることを目的として、子どもの健康安全に責任を持って日々の保育にあたっている保育者に、子ども自身が自分の健康と命を守るために今、一番必要だと考えるテーマを選んで教材を作成してもらった。

方法

日々の保育の中で、子どもたちの健康と安全に責任を持ち、心配りをしている保育者（幼稚園教諭・保育士など）に、幼稚園教育要領¹⁾、保育所保育指針²⁾、幼保連携型認定こども園教育・保育要領³⁾に記

いざなぎいっぱい
カラダをうごかすために...

いざなぎをよぼうしょう!

★まずは3つのことをきをつけよう★

① ハサミをただしく
つかおう



② おともだちを
たたいたり、けったりしない



③ よくねること、たべることも
いっぱいながのよぼう



図1：子どもたちに見せる教材例

○ 幼稚園教育要領・保育所保育指針

ねらい

(3) 健康、安全な生活に必要な習慣や
態度を身に付ける。

内容

(10) 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの
行動の仕方が分かり、安全に気を付けて
行動する。

〈保育者の動き〉

- ・ ハサミや刃物の使い方をしっかり教え、
子どもが使っているときは見守る
- ・ 遊具は正しく使うように声をかける
- ・ よく寝ること、よく食べることが子どもに声かけする
- ・ 子どもが怪我をしていないか、常に把握する
- ・ かいたんなど走らないよう、子どもに声かけする
- ・ バランスの良い食事と心がける

〈補足事項〉

- 子どもに起こりやすい事故や怪我
 - ・ ベランダ、階段などの高いところからの転落
 - ・ 刃物や鉛筆などの尖ったものの怪我
 - ・ 壁掛け式の鏡や置き鏡・壁掛け式の時計や
絵画等の怪我
 - ・ 長いコードやコンセント等の怪我
- 事故や怪我の予防方法
 - ・ ベランダの窓の周囲など、高いところに登れるような踏み台
になる物を置かない
 - ・ 危険な物は子どもの手の届かない所に保管する
 - ・ 落下の危険性のある物はしっかりと固定する
 - ・ コンセントには感電事故防止カバーを設置する
 - ・ コード類は、短くまとめておく

図2：教材の裏面・教材を利用した指導・支援の際の参照事項

載されている保育内容の中の健康・安全に関する項目から、2022年現在、子どもたちが自分で自分の健康や安全を守れるようになるために最も必要だと思うことを考えて教材を1つ作成するよう依頼した。教材のフォーマットは、A3サイズのケント紙1枚を半分に折って、子どもたちには見開きで、保育者が文字や絵を手書き・手描きして作成し、紙芝居や絵本の見開き1ページのように見せるものとした(図1)。教材の裏面には、指導の際に子どもたちに話すことや、幼稚園教育要領等の保育内容に該当する箇所、他の保育士がこの教材を利用する場合に参考になることなどを記載してもらった(図2)。

教材が完成したら、PDF ファイル化して、どのような内容のものがいくつあったか及びその内容の解釈を行った。なお PDF 化した後、実物は持ち帰って園での指導に活用してもらった。

結果

協力してくれた保育者は 35 名で、健康教育に関するものが 16 個、安全教育に関するものが 19 個で、安全教育の方が多く、園での安全教育に重点を置いた指導・支援が必要と保育者が考えていることが示された。

作成教材・計 35 個の中で最も多かったテーマは、安全教育の中の「けがを防ぐ」であった。「けがを防ぐ」の内容は、遊びの中のけがを防ぐことを目的としたもの（図 3）と、生活の中でのけがを防ぐもの（図 4）に大別され、遊びや園および家庭での生活の中でけがをしないよう子どもたちの注意を喚起し、しっかり理解できるよう、わかりやすく見やすいイラストを描いたり、飛び出す絵本方式やペーパースートを活用して、子どもが関心をもって見ることができ、保育者の話を集中して聞くことができるよう工夫されていた。

表 1 保育者によって作成された教材の内訳

健康教育		安全教育	
手洗い	6	けがを防ぐ	8
元気に遊ぶ	3	災害安全（避難訓練）	5
歯磨き	2	交通安全	4
その他	5	整理整頓（けがを防ぐ）	2



図 3：けがを防ぐ「遊びの中のけがを防ぐ」教材の例



図4：けがを防ぐ「生活の中のけがを防ぐ」教材の例



図5：災害安全「地震の避難訓練」教材の例

災害安全（避難訓練）は、地震（図5）および／または火事（図6）に関する教材が作成された。地震の場合も火事の場合も、避難の際の大原則「おかしも」を子どもたちにしっかり理解させることを重視していた。交通安全の教材も複数作成された（図7）。

なお、健康教育の教材は、感染予防の基本の1つである手洗いが作成された。他にも、体や衣服の清

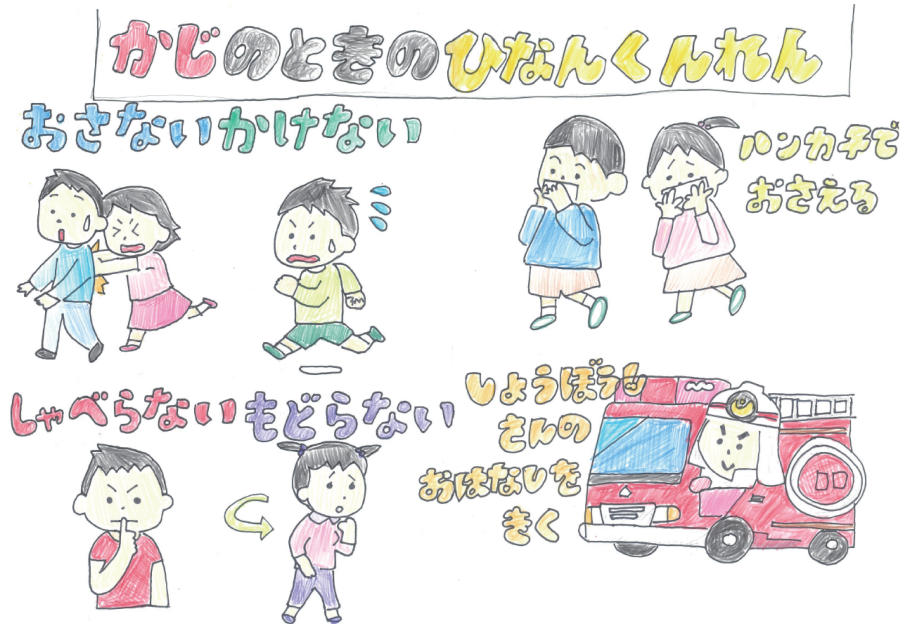


図6：災害安全「火事の避難訓練」の教材例

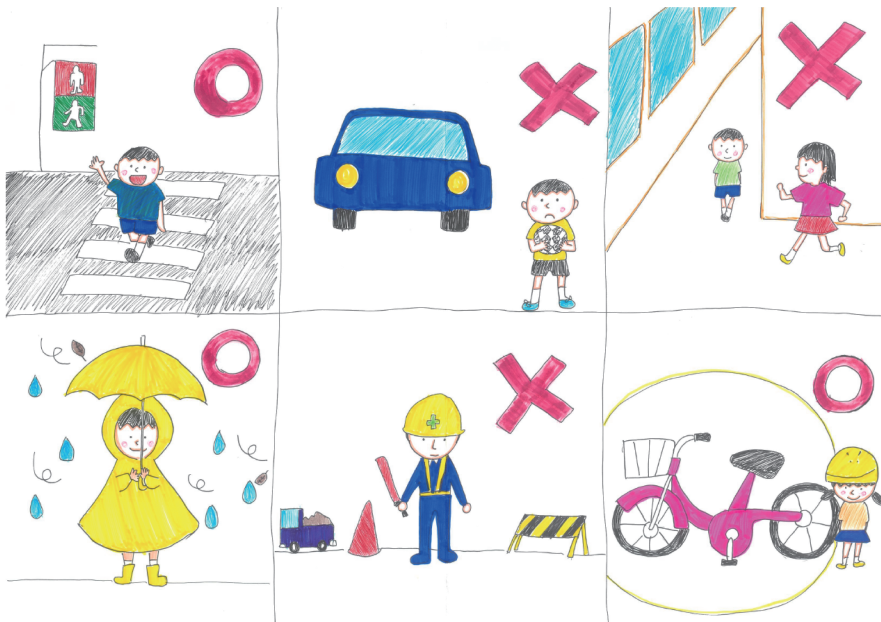


図7：交通安全の教材例

潔を保つ，歯磨きなどの教材が作成されたが，それらは少数であった。

議論

子どもの健康・安全を守ることは、「子ども中心」・「子ども第一」で考えて行わなければ、本当に子どもを守ることにはできない。筆者らは、コロナの拡大で見えなくなっている園児の健康安全上の問題があることを指摘したが⁷⁾、子どもが直面している健康・安全の問題はコロナだけではなく、コロナ以外に、そしてコロナ以上に喫緊で必要であると、保育の現場で子どもたちに接している保育者も認識していることが、教材作成を通じた検証で分かった。

園での死亡原因は頭部外傷や窒息であり、障害が残ってしまったものは、歯牙、手指や上肢、足指や下肢の切断や機能障害、外から見てわかる部分のひどい跡など、防ぐためには安全教育が必要なものばかりである⁸⁾。保育者が作成した教材からも、子どもが遊びや生活の中でのけがを防ぐことを最重要視していることが明らかになった。

コロナとの関連が深い「手洗い」の教材も、作成数は「けがを防ぐ」について多かったが、手洗いについては園でもコロナ拡大前から、外遊びから帰ってきた時やトイレの後、お昼ごはんやおやつの前に頻繁に指導されており、また政府の広報も行きわたっていて⁹⁾子どもたちもあちこちで見ており、通常の生活の中の指導で十分に対応できているので、新たに教材を作成して指導する必然性は特になかった。

なお、新型コロナウイルス・ワクチンは、感染予防効果は短期間しか期待できない¹⁰⁾。重症化を予防する効果はある程度期待できるが、そもそも幼児は重症化することはほとんど無い¹¹⁾。幼児へのワクチン接種は高齢者への感染を防ぐために必要と言われているが、高齢者のために、副反応のリスクなどの懸念がある負担を幼児にかけることには大きな疑問がある。

子どもの健康と安全を守ることは「子ども中心」「子ども第一」で考え、行わなければならない、そのための健康・安全教育も「子ども中心」「子ども第一」でなければならない。

謝辞

この研究はJSPS 科研費 18K02462 の助成を受けたものです。また、教材作成に協力してくださった保育者の皆様に感謝いたします。

参考文献

- 1) 文部科学省, 幼稚園教育要領, (2022 年 10 月 31 日: 閲覧) https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you/index.htm
- 2) 厚生労働省, 保育所保育指針, (2022 年 10 月 31 日: 閲覧) <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000160000.pdf>
- 3) 内閣府/文部科学省/厚生労働省, 幼保連携型認定こども園教育・保育要領, https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00010420 (2022 年 10 月 31 日: 閲覧)
- 4) 文部科学省, 新型コロナウイルス感染症への対応のための幼稚園等の取組事例集, (2022 年 10 月 31 日: 閲覧) https://www.mext.go.jp/content/20200512-mxt_youji-000005336_002.pdf
- 5) 公益社団法人 日本小児科学会, 新型コロナウイルス感染症の小児重症例について, https://www.jpeds.or.jp/modules/guidelines/index.php?content_id=129 (2022 年 11 月 16 日, 閲覧)
- 6) 厚生労働省, 令和 3 年人口動態統計月報年計(概数)の概況, <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai21/index/html> (2022 年 10 月 31 日, 閲覧)
- 7) 渡部かなえ, 感染症の拡大で見えなくなっている子どもの健康の問題, 人文研究 No. 230, pp-429-437, 2021.
- 8) 独立行政法人 日本スポーツ振興センター, 学校管理課の災害 [令和 3 年版], 2021.
- 9) 厚生労働省, 正しい手の洗い方 (2022 年 10 月 31 日, 閲覧), <https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000593494.pdf>
- 10) 厚生労働省, 第 31 回厚生科学審議会予防接種・ワクチン接種分科会 2023 年 3 月 24 日 資料 2「新型コロナウイルス

ワクチンの接種について」[本日の論点 (3) 新型コロナワクチンの 4 回目接種について]

<https://www.mhlw.go.jp/content/10601000/000917854.pdf> (2022 年 10 月 31 日, 閲覧)

- 11) 厚生労働省検疫所, 特集: 小児と青年における COVID-19 の現状について, https://www.forth.go.jp/topics/20210915_00001.html (2022 年 10 月 31 日, 閲覧)